

第1号議案

NPO 法人ワンダーポケット2018年度事業報告

【特定非営利活動に係る事業】

1. 病気の子どもたちが良質な医療を受けるための環境整備に関する事業

(事業費 83,594 円)

● 病院での出張イベントの企画・開催

(1) 『クリスマスイベント』の開催

開催日時：2018年12月12日(水)、14日(金)、20日(木)、25日(火)

開催場所：東北大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院及び国立病院機構仙台医療センター

対象者：入院中の0歳～小学生の子どもたち

対象者数：仙台市立病院 32名

東北大学病院 33名

仙台赤十字病院 46名

国立病院機構仙台医療センター 30名

概要：仙台市立病院と東北大学病院、国立病院機構仙台医療センターにおいては、各病院のスタッフがサンタ隊として子どもたちにプレゼントを配布して下さることとなり、当法人(以下「ワンポケ」という。)ではプレゼントを作成・ラッピングし、イベント当日に病院スタッフへお届けするところまでを担当した。

仙台赤十字病院においては、ワンポケのスタッフでもある病院スタッフがサンタクロースやツリー、トナカイの扮装をし、NICUと小児科病棟へ入院中の子どもたちへプレゼントを手渡した。また、小児科病棟では、病棟主催のクリスマス会に合流し、影絵の人形劇や影絵を使ったクイズコーナー、ダンスなどの企画やプレゼント配布を担当した。終了後、会には出られなかった子どもたちの病室を訪問し、ベッドサイドでプレゼントを手渡した。

配布したプレゼントはキャンディ・レイ(中身はビーズのアクセサリやミニリース、折り紙製の独楽、マグネット、昆虫のフィギュア、風船など)、毛糸とフェルトで作った指人形、厚紙とフェルト製の写真立てなどで、その多くは例年同様ボランティアやスタッフの手で作られたものである。これらに加え、株式会社ジーシー様よりご寄付いただいた歯ブラシや、寄付金で購入した文房具類もあわせてラッピングし、子どもたちの年齢に応じたプレゼントを配布した。

プレゼントの作成に協力して下さったボランティアは15名以上と、多くの方々の協力のもとイベントを成功させることができた。

2. 病気の子子どもたちとその家族を支援するための事業

(事業費 869,725 円)

● 宿泊施設「ラッコハウス」の管理運営

運営期間：2018年4月1日から2019年3月31日まで

利用日数：24泊(38日)

利用者数：延べ42人(延べ16家族)

概要：昨年に引き続き利用数は減少傾向にある。東北大学病院では産科・NICU・小児科の各病棟、また、外来では小児科・歯科・形成外科にパンフレットを配備しラッコハウスについて随時紹介して下さっているが、

近年のマクドナルドハウス利用者の増加や、これまで継続的に利用されていたご家族の利用がなくなったのは病児の状態が安定したことが今年度も影響していると考えられる。今年度は以前頻繁に利用されていたご家族から「数年ぶりに検査入院があるのだが、子どもが大きくなり同じベッドに寝られないので二十歳を過ぎたが利用できないか」との問い合わせがあり対応した。利用者の方からは、お子さんの病状の急な変化や病院の混雑状況等により、直前に利用日やチェックイン時間の変更などの連絡が入ることもあったが、当ハウス近くに住むハウスマネージャーのご協力により、臨機応変な対応をすることができた。

●病児の兄弟姉妹の交流会「きょうだいの会」の開催

開催趣旨： 重い病気を患うきょうだいをもつ子どもたちは、家族の配慮にもかかわらず、孤独感や不安を抱きやすいことが知られている。このような境遇にある子どもたちが大人のスタッフ・学生ボランティアと一緒にゲームをしたり、豊かな自然に触れたりすることで、ストレスを発散し孤独感や不安感を癒すことが出来る心の居場所となるような場を提供する。

開催回数：3回

参加者数：延べ28人（10家族の子ども）

概要：各開催概要は次のとおり

第1回きょうだいの会

開催日時：2018年9月29日（土）

開催場所：オーエンス泉岳自然ふれあい館

参加者数：子ども4名 ジュニアボランティア2名

一般ボランティア3名 スタッフ4名

概要：マイクロバスを借りて泉ヶ岳にある自然ふれあい館に出かけ活動を実施した。

午前中はミニゲームとオリエンテーリングを企画した。まずは穴の開いたコップで沢の水をリレーするミニゲームからスタートした。子ども達は水がこぼれるたびに悲鳴と笑い声があげてはしゃいでいた。その後はスコアオリエンテーリングといって、2チームに分かれて地図を手掛かりに施設周辺から泉ヶ岳スキー場までの広いエリアを使って森林の中にある「1」～「50」の番号札を探し、そこに書かれた鳥の名前を用紙に記入していき、すべての鳥の名前を書き込み先にゴールしたチームの勝利。自然の中に作られたコースは起伏があったり沢を飛び越えたりと難所もあったが、子ども達は目を輝かせて楽しそうに駆け回っていた。

お昼は泉ヶ岳スキー場のグレンデにレジャーシートを敷き、用意したお弁当をみんなで食べた。晴天の下で午前中の活動のことや、お兄さん・お姉さんに高校生活の話の聞いたりしながら賑やかな食事の時間を過ごした。

午後はリフトに乗って頂上へ行き、散策をして楽しんだ。風が強かったが子ども達同士からだをくっつけあい、風を避けながらきれいな景色を眺めていた。また、体育館を借りて卓球やバドミントン、バスケットボールをして思い切り体を動かして過ごした。

久しぶりの開催となり再会を喜び合い、一日中絶えずおしゃべりをして笑顔で楽しんでいるようだった。帰り際には「次はいつやるの？」という期待の声が多かった。

第2回きょうだいの会（スペシャル）

開催日時：2019年1月26日（土）

開催場所：水の森市民センター

参加者数：子ども8名（うち病児は2名） ジュニアボランティア1名
学生ボランティア3名 一般ボランティア3名、スタッフ5名

概要： 水の森市民センターの会議室と調理室を借りてお料理とワークショップの2つの企画を実施した。今回は『スペシャルきょうだいの会』として、病気の兄弟・姉妹も参加可能とした。

午前中は調理室で4つのテーブルに分かれてたこ焼きパーティーを開催した。はじめに料理の先生に見本を見せてもらい手順を覚えた。ほとんどの子どもが自分でたこ焼きを作るのは初めてだったようで、メンバー同士相談し、粉や水の量を計りながら「少し多いんじゃない？」「これくらいなら大丈夫だよ！」などと協力しながら作っていた。具材には揚げ玉やネギ、タコその他、ベーコンやウィンナー、チーズを用意し自分が好きなものを入れ、好きなだけ焼いて食べた。「これ美味しいから食べてみて！」と持ってきてくれたり、「こっちにまだあるから食べていいよ！」と他のテーブルのメンバーを気遣ったりしながら食べているようだった。

午後は足立先生による『自分たちの王国を作ろう！』というワークショップ。ひとつの島にある3つの特徴の異なる領土をそれぞれ工夫して繁栄させるかを考え、その大国のなかでは必ず一人ひとりが何かの大臣として存在することが条件。このワークショップでは自由な発想をメンバー同士が認め合い、協力してひとつのものを作っていくことを体験した。子どもらしいユニークな発想や自由な言葉が飛び交っていた。初めて参加した子どもの中には不安や緊張が強くみられた子もいたが、得意な絵で国旗のデザインを担当したり、自分のペースでメンバーやスタッフに話しかけたり、自分のタイミングで輪の中に入ったりと自由に過ごしてもらった。

第3回きょうだいの会

開催日時：2019年3月21日（木・祝）

開催場所：蔵王町（コカ・コーラボトラーズジャパン蔵王工場）

丸森町（CawaCafe、齋理屋敷）

山元町（山元いちご農園）

参加者数：子ども10名 ジュニアボランティア3名 学生ボランティア1名
ボランティア2名 スタッフ4名

概要： 今年度2回目となる『おでかけ企画』はマイクロバスを借りて宮城県南方面へ出かけた。この日は初めて参加する子どもが3人もいて多くの子どもが参加してくれた

参加した子どもの中には突然のJRの運休により集合時間に間に合わないアクシデントもあったがバスの運転手さんの協力により集合場所の変更をして全員揃うことができた。バスの中で行う自己紹介では、いつも声が小さい子どもも元気よく大きな声で自己紹介をしたり、初めて参加した子どもも他の子どもの様子を観察しながらも直ぐに仲良くなるなど、朝から笑い声が絶えない車内だった。コカ・コーラの工場見学の後は丸森町のカフェへ移動し昼食をとった。あらかじめカレーとピザ、ナポリタンを頼んでおき好きなメニューを選んでもらった。子ども達は自然と初参加の子ど

もを優先的に選ばせてあげたり、「〇〇してもいいんだよ!」「前はこんなところに行ったんだよ!」などと教えてあげたりしていた。

午後は齋理屋敷を見学した後、山元町に移動しいちご狩りを楽しんだ。スタッフの方の説明が終わるとすぐにいちごを求めてお気に入りの場所を探しに行った。ハウスのいたるところから「甘い!」「美味しい!」「去年のいちごは〇〇で、今日のいちごは〇〇だね!」などとおしゃべりしながら嬉しそうながあがっていた。「もうお腹いっぱい!」と言いながらも大きな完熟のいちごを発見しては口に運んだり、スタッフに採ってきてくれたりしながら時間いっぱい楽しんだ。今年で3年連続のいちご狩りとなったが、子ども達は来年も楽しみにしているようだった。帰りの車内では「次はいつ?」「もっとたくさんやってほしい!」という声や、初参加の子どもは「お母さんに言われて来た。朝は不安だったけど今はまだ帰りたくない!」「楽しい時間はあっという間で寂しい」と言ってくれていた。

※きょうだいの会の開催は4回を予定していたが、2018年の夏は記録的な猛暑で東北地方でも連日熱中症による死亡事故の報道があったため実行委員会で検討した結果、夏の開催を見送った。

- きょうだいの会OB・OG交流会の開催
2018年度は実施できなかった。

- ボランティア感謝会の開催
開催日時：2019年2月3日(日)
開催場所：長町遊楽庵 びすた〜り
参加者数：22名
開催趣旨：ワンポケの役員やスタッフが、各活動に携わったボランティアや協力団体、病院関係者などを招待し感謝を伝えるとともに、活動報告や情報交換の場とする。
概要：当法人の役員や運営委員が、この一年間にお世話になったボランティアや協力企業の方々、病院関係者の皆様などをお招きして食事をしながら交流し、日ごろの感謝を伝えた。各活動を紹介するスライドショー上映やじゃんけん大会も行い、和やかな雰囲気の中で、ワンポケの活動への思いを話し合った。

3. ボランティアを育成するための研修プログラムの提供事業 (事業費 437円)

- ボランティア・スキルアップ講習会の開催
開催日時：2018年12月15日(土)
開催場所：宮城県立こども病院 愛子ホール
開催趣旨：病院の小児病棟などで活動をしているボランティアの方々やこれから病院ボランティア活動を志す方々、保育士や学校教育に携わる方々など幅広く子どもに寄り添う人々を対象に、子どもを取り巻く社会環境の問題点を抽出し、共通理解を深める。ボランティアの質の向上、モチベーションの維持を目指し、活動意義や活動内容に伴う知識を習得する。また、ワンダーポケットの活動を一般の方たちに理解していただく場所として企画・開催し、ワンダーポケットの活動のための組織強化を図るとともに、ボランティア同士の情報交換の場とする。

講義内容：『小児慢性疾患児の発達と支援』

講師：宮城学院女子大学教育学部教授 足立 智昭 先生

受講者数：約30名

概要：今年度も宮城県立こども病院との共催でボランティア・スキルアップ講習会を開催した。当法人の理事である足立智昭先生を講師として、医療の進歩は難病の子ども達の命の灯火に新たな輝きを与えてくれるが、医療の進歩によって子ども達とその家族が“普通”の生活を手に入れたわけではなく、実生活において抱えている諸問題の解説や、足立先生ご自身が小児科の保育士や心理士にスーパーバイズしたことによって見えてきた家族としての機能の低下など様々な視点からの問題と支援者へのアドバイスをお話しいただいた。受講者のアンケートには「病児について学びたいと思っていたがなかなか機会がなかったので大変勉強になった」「今まで考えがおよばなかった深いところまで学べる良い機会になった」「足立先生の実体験からの実り多い内容だった」「こども病院に来るこどもや保護者が抱えているストレスや悩みの一部を知れたことが良かった」「病気のこどもを包み込むような言葉がけや安心できる接し方や表情でいたいと思った」「こどもの遊びに付き合うことが傾聴になるというお話は自分にも出来ることがあるという自信になった」などの多くの受講者から感想が寄せられ、充実感や励ましを受けたようだった。

●ワンダーポケット「きょうだいの会」勉強会

ワンダーポケット「きょうだいの会」勉強会は、企画したが学生ボランティアの減少により参加者がなく2018年度は実施できなかった。

●ワンダーポケットの活動を通じたボランティアの育成・支援

活動事業：総会、ボランティア講習会、クリスマスイベントなど

従事者数：延約80名

概要：ワンダーポケットが主催したイベントの際には、宮城大学の学生やOB・OGをはじめ一般のボランティア希望者へ、メールやブログ、フェイスブック等を通して呼びかけを行い、ボランティア活動の場を提供した。各イベント後には成果や反省点等を共有する機会を持ち、継続的なボランティアの育成を図った。

4. この法人の活動に関する一般社会の理解をより深めるための広報、啓発事業

(事業費 16,720円)

●ホームページ、ブログ「ラッコのしっぽ」、フェイスブックの継続

ホームページやブログをイベント開催前や終了時を中心に随時更新するとともに、ワンダーポケットのフェイスブックも併用し、外部への情報公開や会員・支援団体への活動状況報告、ならびに各イベントやボランティア作業への参加呼びかけのツールとして活用した。

●ワンダーポケット通信の発行

発行回数：2回

発行部数：各150部

概要：ワンダーポケットの活動状況を、会員やこれまで様々な形で活動を支援してくださっている方々に知らせていくため、ワンダーポケット通信 Vol.33および Vol.34を発行した。Vol.33では2017年度後半の活動

報告を行い、Vol.34は 2018年度前半の活動を報告する内容となっている。

- 法人紹介リーフレットおよびラッコハウス案内リーフレットを改訂
実施出来なかったため、来年度実施することとする。
- 『ボランティア・スキルアップ講習会』の会場において書籍の展示・販売を行う
病気の子どもに関する書籍の展示・販売は、2018年度は実施しなかった。
- JHHH ネットワーク会議への参加
開催日時：2018年10月14日（日）
開催場所：コラッセふくしま
参加人数：2名（運営委員・事務局 各1名）
概 要： 全国の病児と家族のための滞在施設を運営する団体が集まる JHHH（日本
ホスピタル・ホスピタリティ・ハウス）ネットワーク会議に参加した。会議
の前半では厚生労働省の方から『小児慢性特定疾病児童等自立支援事業』に
ついての講演があった。また、分科会では「ハウスの原点」というテーマで
ハウス運営がスタートした時の関係者の信念や、その後の環境の変化の中
においても忘れてたくないこと、今後のハウス運営にあたって引き継ぎたい思い
などを話し合った。全国のハウススタッフと言葉を交わすことで共感したり
自分に足りないものに気づいたりとても貴重な時間となった。

5. その目的を達成するために必要な事業 （事業費 0円）

- 『ワンダーポケット』の組織強化活動
 - (1) 新規会員募集活動の実施
ボランティア・スキルアップ講習会の開催の場を活用して新規会員を募ったほか、
役員や運営委員からも周囲へ会員募集の声かけを行った。
 - (2) 現在の会員数の状況
2019年度3月末時点の全会員数は85名で、その内訳は一般会員70名、学生
会員1名、賛助会員14名うち団体5名となっている。また会費の未納者は9名、未
納額は32,000円。なお、2018年度は5名が退会した。
- 会議の開催
 - (1) 理事会の開催
 - ①開催日時；2018年5月23日（水）
開催場所；仙台かき徳
議 題；総会に付議すべき事項について
 - (2) 総会の開催
開催日時；2018年6月2日（土）
開催場所；みやぎNPOプラザ 第一会議室
議 題；2017年度事業報告及び決算報告
2018年度事業計画案及び予算案

●事務局の運営等

- (1) 事務局員（2名）
- (2) 運営委員会の開催 計2回
- (3) 実行委員会の開催 計4回

【その他の事業】

その他の事業（物品の販売事業及びチャリティー事業）は、2018年度は実施しなかった。